



和算の復元「算額」 大垣の神社に奉納

垂井の水野さん 2カ所目

日本独自の数学「和算」の問題や解答を絵馬に描き、寺社に奉納した「算額」。江戸時代末期に大垣八幡神社(大垣市西外側町1丁目)に奉納されたが、第2次大戦の戦火で焼失した算額が復元され、17日、同神社に奉納された。

復元したのは、垂井町の元高校数学教諭、水野隆生さん(70)。水野さんは10月にも垂井町宮代の南宮大社に復元算額を奉納してお

大垣八幡神社にあった算額を復元・奉納した水野隆生さん(右)
〓大垣市西外側町1丁目

り、2カ所目となる。

大垣八幡神社には江戸時代末期の天保年間に、大垣で和算塾を開いていた和算家・谷幽斎(1800〜41)の門人らが算額を奉納したが、1945年の大垣空襲で神社ごと焼失した。復元した算額の問題は、県内の算額についての研究書「岐阜県の算額の解説」(高木重之著)から引用した。

算額は長さ188センチ、高さ68センチで、図形を添えた10問が再現されている。第7問は解法がわかっていないという。中川幹彦宮司(49)

は「貴重な算額を復元、奉納いただきありがたい。多くの人に和算の文化を知ってもらい、後世に残していけたら」。水野さんは年内に、垂井町の真禪院への奉納も予定していて、「この地に算学を楽しむ文化があったことを子どもたちにも知ってもらいたい」と話した。

問題の解説や解法例については冊子(A4判)にまとめられ、垂井町観光案内所(0584・23・2020)で1千円(税込み)で販売されている。

(板倉吉延)